

こむの事業所 1 年の記録 (2021 度)

認定特定非営利活動法人こむの事業所

こむの事業所が A 型事業を始めてから 11 年が過ぎました。昨年からの新型コロナウイルス感染拡大による就労支援事業収益への影響は厳しいものがありましたが、スタッフ全員が日々の仕事に励み、たえることなく業務の改善と品質向上に努めたことによって、収益は改善し、年度末にはスタッフ全員に 0.7 か月のボーナスを支給することができました。

また提供している食事、製造販売している食品等々の品質も日々高まるとともに、清掃チームの作業内容、仕上がりへも高い評価を得ており、どの部門をとっても自信をもって事業拡大を図ることができる状態にあります。

ただ、2021 年度には、創業以来一所懸命に働き続けていた中川洋希さんが急病のために亡くなるという悲しい出来事がありました。仕事が楽しくてどんなことにもチャレンジする精神とこむの事業所への愛着は、誰にも負けないものがあり、スタッフ全員の気持ちにつながっていました。

いま、こむの事業所の理念「みんなが働き、楽しく暮らす」に近づいていることを実感し、働き甲斐のある仕事を目指すために、「みんなが働き」を「楽しく働き」に変えてはどうかという議論も始まっています。

1 障害者スタッフ等の在籍、退職と一般就労

表 1 障害者等スタッフ数の推移 (各年 5 月 1 日現在)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
障害者スタッフ	3	15	17	18	22	20	22	20	21	20	22	24	21
退職者(年度)		3		4		3	3	4	0	2	1	4	
一般就労(年度)					1	0	2	1	2	0		1	
その他支援			2	3	3	5	6	4	4	7	7	6	7
正規・常勤職員	1	3	3	4	6	8	8	12	13	11	10	8	8
パート(常勤換算)	2	2	6.86	8.5	6.1	7.8	8	13.3	10.3	8.1	7	6.5	9

2021 年度は、移転のため 10 年間提供し続けていたためふプラザへの給食がなくなったことが収益の大幅な減少を招き、障害者スタッフの雇用にブレーキがかかる事態となりましたが、「はんしん自立の家」の清掃を新たに受託したことや収益が悪化していたこむの市場を補うために菓子製造やチョコレートの販売などに努めたことにより、障害者スタッフの雇用はほぼ維持することができました。

その一方で、障害者スタッフの一般就労については、清掃スタッフを特別養護老人ホームに派遣実習を行いました結果をだすにはいたりませんでした。

また、昨年度に引き続き障害者スタッフの応募に際しては、積極的に見学・体験を取り入れるようにしており、兵庫県立姫路聴覚特別支援学校からの強い要請を受けて在校生徒の実習に取り組んだ結果、体験した生徒のこむの事業所への A 型就労を経て一般就労を目指すプログラムを検討することとなりました。

さらに通勤が困難な場所にあるグループホーム居住の障害者に、住居支援の住居を利用

しながらこむの事業所の業務に従事し、生活と仕事のリズムが安定した段階で、通勤圏のグループホームに住み替えることで、安心して働き続けることができるようになっていきます。

2 事業収支と就労支援事業の推移

表 2

事業収支の推移	単位千円											
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入	9,062	54,774	75,999	74,651	88,598	93,025	88,214	93,058	110,526	114,253	119,749	104,792
支出	14,155	52,129	63,917	73,500	85,592	90,388	91,660	97,685	112,153	110,798	110,832	105,614
収支	△5,092	2,644	12,082	1,151	3,006	1,844	△3,446	△4,626	△1,627	3,455	8,917	△ 822
特開金		3,450	7,050	2,400	2,377	1,185	1,300	1,200	1,200	2,500	2,233	1,100

2021年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴う売り上げへの影響があることに加え、めふプラザの給食の停止、さらにコロナ関連助成制度の縮小など厳しい経営環境におかれまして。そのような厳しい経営環境ではありましたが、清掃現場の拡大や新たな商品開発、販売の拡充などの努力を重ねた結果、前年度に引き続き黒字基調で推移し、年度末には0.7カ月のボーナスを支給することができました。

しかし支給決定後に冷凍庫の大規模修繕などが重なったために、決算上は赤字となっています。

表 3

就労支援事業収入の推移	単位千円											
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
レストラン・配食		2,963	4,881	6,852	9,273	12,087	13,049	17,144	21,777	18,390	25,561	25,166
給食	4,004	10,606	13,802	13,732	13,357	13,330	13,526	13,288	13,069	10,763		
市場		1,200	4,401	6,175	8,338	8,938	8,374	8,256	16,301	12,692	6,950	6,177
その他				2,409	3,622	4,864	3,050	3,068	1,700	1,274	566	2,241
清掃	1,285	7,887	8,065	6,987	10,668	11,902	10,656	12,183	11,203	11,638	14,154	19,276
駐車場		6,663	7,033	7,695	7,763	8,068	7,345	7,003	6,816	6,386	4,407	4,502
事業収入計	5,289	29,319	38,182	43,850	53,021	59,189	56,000	60,942	70,866	61,143	51,638	57,362

表 3 は、就労支援事業の事業ごとの推移を売り上げベースで表したものです。従前はパソコンその他という項目でくくっていた事業のうち、パソコン事業以外の売り上げが大きくなってきたので、その他という項目名に改めています。

食事サービス事業については、めふプラザの給食がなくなり、毎年五百数十万円あった売り上げがゼロになりましたが、前年度減少した育成事業所等の給食数がやや回復したことやレストランの売り上げ増に力を注いだことにより前年とほぼ同額の売り上げを確保することができました。

一方で電気料金の値上がりが続いており、料金は年間 100 万円近く増高しています。また年度末にかけて、ウクライナ戦争の影響から食材も大幅な値上がりとなっており、給食単価やレストランメニューの価格改訂も課題になっています。

その他事業では、パソコン事業はおおよそ 18 万円の売り上げである一方で宝塚フィナンシェ、チョコレート、蜂蜜等の売り上げは大幅に増加し、総額では 200 万円を超えており、これからも売り上げを伸ばす可能性のある部門になっています。

清掃部門では、フレミラ宝塚、市立健康センターに加えて公共施設の受託箇所を増やそうと宝塚市と協議を重ねていますが、結果を出すことはできませんでした。その一方で療護施設はんしん自立の家の清掃を新たに受託したことで、売上げ増を得ただけでなく、作業時間が午後の業務であることにより、従事する障害者スタッフ個々の労働時間を増やすことにつながりました。

また除草作業などスポットの業務も積極的に請け負ったことなどにより、清掃部門全体の売り上げは大幅に増加しています。

駐車場部門の収入については、2015年度には約800万円あったものが2021年度には約450万円に落ち込んでいます。売り上げの減少傾向が続く中で新型コロナの影響からの回復も弱く、加えてぶらざこむ2の建て替えに伴いフレミラ駐車場が廃止され、新設される「あるでこむ」の駐車場となるため、その収入の減少を想定した経営計画が必要となっています。

表 4

最低賃金と障害者スタッフ支払い賃金の推移					障害者スタッフ賃金は単位千円						
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
兵庫県最低賃金	734円	739円	761円	776円	794円	819円	844円	871円	899円	900円	928円
障害者スタッフ賃金	11,757	13,901	15,635	18,496	18,934	18,573	17,915	22,135	22,936	25,169	25,450

表 4 は、兵庫県の最低賃金と障害者スタッフへの支払い賃金の推移を表した表です。10月からは最低賃金の時間単価が900円から928円に引き上げられ、本年2月には2022年度の最低賃金改定を見越して時給単価を950円に引き上げたところですが、障害者スタッフの一部が出勤困難になるなど、全体の勤務日数が減少したために、賃金の総額の伸びは小さいものとなっています。

その一方で週30時間以上の勤務をし、社会保険の適用を受ける障害者スタッフもこの4月1日には5名となり、社会保険適用という目標に向かって着実に歩んでいます。

さらに年度末に全員に0.7カ月のボーナス支給ができたことは、スタッフの大きな励みになりました。

3 ディーセントワークと職業能力開発

(1) 清掃業務

こむの事業所では、清掃業務をこむの事業所のすべての業務の基本になる仕事としてとらえ、障害の特性から従事が困難な人は別として、誰もがまず就くべき仕事と考えています。職場体験や見学で訪れた人の誰もが、トイレの便器をピカピカに磨き上げているスタッフの姿に感動し、清掃業務への感謝と敬意を示されます。

また清掃業務をしっかりとやり遂げることができるようになったスタッフは、仕事に対する姿勢や生活のリズムが身につく、一般就労に近づくことができている。

このような貴重な業務をさらに広げ、多くの就労困難者の就労の機会を拡大することが求められています。

(2) 駐車場管理業務

駐車場管理業務は、清掃や調理補助などの業務に就くことが困難な障害のあるスタッフのかけがえのない仕事になっています。

この業務がこのように他の業務では考えられない多様な障害のあるスタッフの仕事となっていると評価できる反面、待ちの仕事であり、その間の精神的な負担や職業能力の向上につながりにくいという指摘がなされてきました。

そのような中でも、金銭管理面などで常に改善を考えるなど高いモラルを維持するスタッフも出てきました。

そのような性格をもつ業務ですが、来客への応対から生まれるコミュニケーションを通してスタッフひとり一人の障害への理解と関係性が出来てくるという優れた側面も有しています。

今後は、駐車場管理業務からの収益が減少することも念頭に置きながら、よりよい業務としていくための取り組みが求められています。

(3) レストランこむずのホールサービスと厨房業務

レストランこむずは、新型コロナの打撃から力強く業績の回復に向かっています。定例的に開催する厨房とホールのミーティングからは、お客目線にたった新たなメニューが開発され、調理と品出し、円滑な食器洗浄などの連携が行われており、おいしい料理と快適なサービスが来店者の満足度を高め、結果を出しています。

そのことは厨房業務を多忙にしていますが、2021年度は宝塚フィナンシェの製造、マドレーヌの新規開発製造、こむのチョコレート、蜂蜜などの袋詰めや瓶詰などの作業が大きく加わり、従事するスタッフの職能は高いレベルに達しています。

それは、製造スペースと人的配置が窮屈になる事態も招いており、菓子等製造部門の発展によっては、食品製造部門のための厨房の整備も検討課題となりつつあります。

(4) こむの市場

数年来苦境に立たされていたこむの市場は、ようやく回復の兆しがみえつつあります。ただ店舗への来客数は、減少したままであり、売り上げの多くを出張販売に頼っているのが現状です。

店舗での販売に従事する障害者スタッフも安定して配置できつつあるので、来客を増やしていく取り組みを進めると同時に、出張販売に適した商品の仕入れと開発に取り組む必要があります。

4 住居支援

表5

住居利用の推移	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
利用延べ日数	0	123	23	54	314	131	552	561	534	634	459
利用件数	0	4	5	9	4	9	14	8	23	16	13

2021年度の住居利用は、延べ459日となり、2020年度の634日から大幅に減少しました。上半期において新型コロナ感染予防のために利用を抑制せざるを得なかったためです。その一方で、新型コロナウイルスの影響から家庭内の暴力からの緊急避難の利用がめだっており、シェルターとしての利用を優先してきたために自立訓練の利用機会が狭まっていると考えています。

実際に一時避難として利用した人達は、支援機関の取り組みにより次の住まいを確保して安定した生活を実現しており、住居支援事業は、シェルターとしての機能を十分に果たしていると判断しています。

また、宝塚市内にかぎらず近隣都市の相談支援機関にはクライアントの危険からの回避と生活の維持、次のステップのための足場として貴重な資源となっており、利用機関の適切な支援を提供いただいています。

住居支援の利用者にとっても大切な一時的な住まいと認識されており、備品等は丁寧に扱われ、概ね清掃は行き届いており、電気料金等の支払いもしっかりできています。

過去10年間約100件の利用について、夜間等のトラブルは1件、部屋の乱雑な使用は2件であるなど問題の発生は少なく、ほとんどの人が感謝の気持ちをもって利用しています。

4 いくつかの課題

(1) 施設設備のメンテナンス

2021年度には、冷凍庫の冷却装置そのものが破損したり便器の水漏れに伴う交換が生じたり、10年を超えたことから修繕費が194万円を要する結果となりました。また機械設備だけでなく、建物の雨漏りや玄関前のスペースの舗装の痛みなどもあらわになってきており、今後それらの修繕、補修費が膨らんでいくことが予測されます。

2021年度末では、施設整備積立金約25万円、減価償却積立金200万円がありますが、今後の大規模修繕や設備の入れ替えに備える資金計画を立てる必要があります。

(2) 農福連携の課題

2021年度こむの事業所事業計画において、掲げていた農福連携事業について、西谷地区の農地の利用の可能性について調査を開始しました。

農地については、農業法人以外が確保することは難しいため、農作物の作付けを試行的に行うこととして、西谷地区の農家への協力要請を行っています。

なお当面は収益が限られるため就労継続支援事業としての事業実施は困難であるので、寄附財源の中で取り組みを進める必要があります。

(3) 研修の充実

2021年度においては虐待防止対策の強化のために、前年度に引き続き外部講師を招聘して全員を対象にした研修を行い、認識を深めることができました。とりわけ事業所の理念を共有することの大切さなど幅広い視点からの意識づけが得られました。

スタッフのキャリア形成に向けた研修については、1名の介護福祉士資格取得研修受講に

ついて支援するとともに、1名がサービス管理責任者研修を受講しました。

(4) 福利厚生事業の充実

この2年間は、新型コロナウイルス感染防止のために団体行動が著しい制限を受けました。そのためにレクリエーションの開催ができず、スタッフ間の親睦を図る機会がありませんでした。従前実施していた職場旅行や懇親会の開催が必要と切実に感じています。

また、音楽、スポーツ活動も全くできず、唯一絵画教室だけがボランティアの先生のサポートで続けられています。

余暇活動やアート活動は暮らしに欠くことができないものであり、特に障害者スタッフが事業所を離れてその機会を得ることは難しいため、新型コロナの情勢を見ながらこれらの活動を再開することが求められています。

さらに多くのスタッフに健康管理上の課題があることがわかっていることから、健康管理をサポートするための厚生事業も必要となっています。